

# 進路だより

札幌伏見支援学校もなみ学園分校  
令和6年7月25日発行 NO.2



## 「進路決定のコツは？」～生成 AI に教えてもらいました

校長 倉科辰男

巻頭言を書くにあたり、最近話題となっている生成 AI に「進路決定のコツは何？」と聞いてみました。すると「情報収集は怠らない」「選択肢を比較する」「自分の得意なこと、興味あることを振り返る」などいくつかの助言(?)が得られました。合点がゆく答えにうなずきながら、その中でも大切なことは…と整理してみると情報収集ではないかと思いました。やはり気になる学校や事業所を知ることは重要なことですから。

「そういえば、札幌市にはいくつ事業所があるのだろう？」とインターネットで調べてみると、その数にビックリ！様々なサービス事業所を合わせると、なんと 3,579 事業所(R6 年 6 月)あると判明。中央区には 482 力所、北区 505 力所、東区 498 力所、白石区 447 力所、厚別区 180 力所、豊平区 453 力所、清田区 181 力所、南区 246 力所、西区 403 力所、手稲区 184 力所ということがわかりました。全道の障がい福祉サービス事業所の数は約 8,100 力所なので、45%弱の事業所が札幌市内に存在することになります。

ところで、レストランでメニューがあまりにも多いたとなかなか決められない、という経験をしたことはありませんか？このことを「決定回避の法則、別名(パンにつける)ジャムの法則」と呼ぶそうです。人にとって多くの選択肢の中から選ぶというのはとてもストレスで、選択肢が多くなると決断力は低下するようです。学校で紹介される事業所の数くらいなら「この事業所は何をしているのだろう」と調べてみたり考えてみたりしますが、さすがに 3,579 力所にもなると調べようとは思わなくないませんか。「進路を決めること＝選択すること」と捉えた場合、いかに選択肢を絞っていくかがポイントのように思います。しかし、自力で情報収集するには限界があります。まさか札幌市内の事業所を全て調べるわけにはいきません。

そこで、助けてくれるのが“横のつながり”です。PTA や親の会などで情報交換をすると、いろいろな話や体験談を聞くことができます。全ての話をつまみにつまみすることなく、得られた情報を自分の目と耳で確かめる必要がありますが、情報交換の場が選択肢を絞り込むきっかけになるかもしれません。

いずれにせよ、子供たちに「自分らしく」「豊かな生活」を送ってほしいというのは、家庭・学校の共通の願いなのでその実現に向けて支援していきたいと思いますが、同時に子供たちにも「自分の目標」を持ってもらいたいと思います。生成 AI には書かれていませんでしたが、もしかしたらそれが進路決定のコツで最も大切なことなのかもしれません。なぜなら、子供の希望や意思が支援者たちを動かすのですから…。

## ～高等部現場実習の様子～

6月から7月にわたり、高等部では現場実習が始まりました。学校を離れて実際に企業や事業所、施設などで仕事や活動を体験できるよい機会となります。実習先によって、時期や活動内容は様々です。その様子をここでお知らせします。

- 6月3日から5日間の現場実習に行ってきたNさん。利用者さんの中に知り合いが多く、初日の午後には大分緊張もほぐれてきていた様子でした。この5日間、実習ということを意識して、課題でもあった、活動の時間と休憩時間の切り替えをすることができていました。実習先からは「意欲的に活動に取り組むことができていた」と良い評価をいただくことができ、とても良い経験になったと思います。
- Nさんは6月17日から生活介護事業所へ5日間の現場実習に行ってきました。初日から笑顔で過ごすことができ、シール貼り、バスボム作りの作業を行い、慣れない環境の中でも集中して活動を行うことができました。水曜日辺りから疲れが見られ、休憩時間にストレッチマットの上やソファで横になって休む様子がありました。遅刻や欠席をすることなく、毎日通うことができたことはNさんにとって良い経験になったと思います。
- 現場実習が始まる前は緊張していた様子でしたが、現場実習が始まると元気に「おはようございます!」、作業が終わったら「できました!」と報告するなど、学校でできていることが違う場所でもできているとのこと。巡回では、1つの作業が終わったら次の作業…と、時間いっぱい作業をする様子が見られました。これまでの学習の成果を出すことができた現場実習になったのではないのでしょうか。本人も「楽しかった!」と実習を振り返っていました。
- 事前面接では、初めて行く場所に圧倒されて、言葉も出てこなかったMさんですが、いざ実習が始まると好きな物の話や学校での話などを職員に教えたり、積極的に関わったりすることができていました。いつもと異なる環境でなかなか寝られない日もあったそうですが、雑草抜きや紙ちぎり等の作業を行ったり、お茶を飲むときには他の利用者にお茶を配ってあげるなどのお手伝いもしていました。実習が終わると「頑張ったよ」と先生方に報告してくれました。
- 6月24日から10日間の現場実習を終えたOさん。パン作りやアクセサリー作りの仕事をしました。普段からデイサービスでパン作りをしていることもあり、職員の話をよく聞き、慣れた手つきで作ることができていたと職員からお話がありました。アクセサリー作りでは、本校の作業学習で取り組んでいる内容でもあり、穴をよく見て自分でビーズに糸を通すことができていました。10日間の実習で、充実した時間を過ごすことができたようです。
- 2週間の現場実習では、ビーズアクセサリーづくりや販売の接客・レジ打ち等を行ってきました。初めての作業に戸惑い、疲れて床に寝転んでしまうこともありましたが、職員に励ましてもらい、一緒に作業のサポートをしてもらうことで、最後までやり遂げることができました。最終日には、自分でできそうなことを一人でやってみたいと自らの意思で伝える場面があったようで、「社会に出ようとする意欲が伺える」とIさんの心構えや態度を高く評価していただきました。

現場実習では、日常とは異なる環境で第三者の評価を受けることにより、成長した点や逆に課題となる点が顕著に表れてきます。これまで学校や家庭で身に付けてきた力をどのように発揮すればよいか、課題はどんなところなのか明らかになり、そこから新たな目標が生まれます。今後、目標を一つでもクリアし、達成感を味わえる経験をこれからの生活で重ねてほしいと思います。

保護者の皆様には、持ち物の準備から送迎など様々な面でご協力いただきました。今後も、ご協力をよろしくお願い致します。

